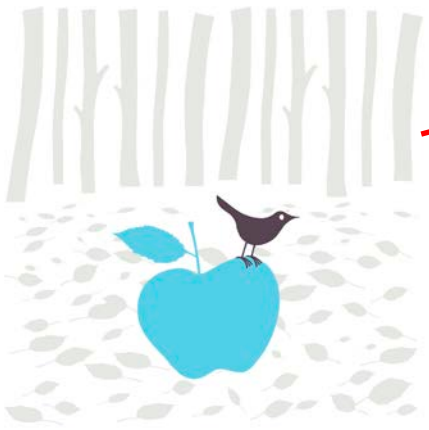

ぶらり らいぶらりぃ

～図書室にはこんな本があります～

Ｎｏ．　１３８

★利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。
（書名の後の（ ）の数字は請求記号です。）

問）戦時中の警察官や憲兵が屋内で御真影に敬礼をする時は、どのような敬礼だったか。挙手の敬礼か４５度の敬礼か、どちらか？

答）「敬礼」「警察」「礼式」「最敬礼」をキーワードに検索をしてみます。
（＊　天皇陛下に対して行う敬礼が「最敬礼」です。）

図書　→　ことばから調べる　→　敬礼　警察　→　２０件
図書　→　ことばから調べる　→　最敬礼　→　２４件

『警防団礼式例』
（317/N37　閉架）
『陸軍礼式令同付録』
（396.9/R44/B　閉架）
『昭和国民礼法要項』
（385.9/W46　閉架）

（最敬礼の仕方「昭和国民礼法要項」より）

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。
検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。
操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。

“ざわわ” “ざわわ” 「さとうきび畑」の歌

『さとうきび畑』を私が初めて耳にしたのは、平成９年のNHKテレビ、紅白歌合戦で森山良子さんが歌っていたときです。聴きながら、訪れたことのない沖縄の夏空や景色が目の前に広がり、体験したことのない戦争について考えました。そして「ざわわ」というフレーズがしばらく耳から離れませんでした。

『さとうきび畑』を作詞作曲した寺島尚彦さんは昭和３９年に初めて、沖縄を訪ねる機会を得ました。本土では見たことがないさとうきび畑が、島全体に広がっていました。案内人から「あなたが今歩いているこの土の下に、まだ多くの戦没者が眠ったままになっているのですよ」と聞かされ、その瞬間、さとうきびの葉が風に揺られ音を発しているのが、その人々の魂の叫びのように聞こえました。その時から、沖縄戦で亡くなった人々の怒号や嗚咽を歌にしたいと考え、その葉音を“ざわわ”と表現するまで2年を要しました。

昭和４２年の春、森山良子さんによって歌われ、NHKテレビ「みんなのうた」で歌われた頃から流行しだし、今や子供も口にする歌にまで成長しました。

「南の青空が戦争を忘れてしまったとしても、あの悲惨な記憶を胸に秘めながら、平和の願いをこめて歌い続けて欲しい」と寺島さんは語っています。

［参考文献］:『哀しい歌たち』(767/A62)開架　『本当は戦争の歌だった童謡の謎』(909/G55)閉架

さとうきび畑　作詞・作曲　寺島尚彦

著作権があるため、掲載できません

－図書室から－

暑さと豪雨の夏も終わり季節は秋へと移り変わっていきます。暑さで疲れた体を休めて秋を楽しみましょう。

ぶ ら り ら い ぶ ら り ぃ ～図書室にはこんな本があります～ NO. 138

2011年9月21日　発行/ 編集・発行　昭和館 図書室〒102－0074　東京都千代田区九段南1－6－1